

桜物語 ～地区補助金を活用した社会奉仕活動～

先日、地区補助金を活用し、酒田市役所の皆さまのご協力を頂きながら、西荒瀬保育園の園児たちと共に桜の木を植樹しました。植樹の場所となった日和山公園は、「日本の都市公園百選」にも選ばれている、市民にとって憩いの場であり、春には約四百本のソメイヨシノが咲き誇る桜の名所です。しかし、老木が目立つようになり、今後も美しい桜を守り続けていくためには、若い木への植え替えが必要であるとのお話を伺いました。

当日は、庄内街頭紙芝居実践研究会会長の米田左之助さんによる紙芝居を、園児たちと一緒に鑑賞しました。酒田の歴史や桜の大切さについてのお話に、子どもたちは真剣に耳を傾け、なぜ桜を植える必要があるのかを自分なりに考える機会となりました。

スコップを手に取り、苗木に土をかける作業に挑戦する子どもたちの姿は、とても頼もしく見えました。「桜の花を見ると嬉しくなる」、「自分たちが植えた桜の木を、来年も見に来る」、そんな言葉を口にする子どもたちの眼差しは、澄んだ輝きを放ち、十年後、二十年後の未来の酒田を見つめているように感じられました。

桜と共に成長していく子どもたちの姿を思い描きながら、私たちメンバーもまた心を込めてスコップを握りました。そして、この子どもたちの未来のために私たちにできることは何か、改めて深く考える時間にもなりました。

ロータリーには「奉仕に学び、職業で奉仕する」という言葉があります。奉仕活動を通して奉仕の心と理念を学び、その学びを自らの職業や日々の行動の中で生かしていくことが、ロータリアンの使命であると感じています。今回の植樹活動も、まさにその実践の一つでありました。

桜の木は、これから年月をかけて大きく枝を広げ、子どもたちの成長を見守り続けることでしょう。その姿は、未来を生きる子どもたちへの希望の象徴となるはずですが、私たちはこの桜の木と共に、奉仕の心を大切にしながら、より良い社会を築いていけるよう努めてまいりたいと思います。

そして、今日植えた一本一本の桜が、やがて酒田のまちを彩り、訪れる人々の心を和ませる存在となり、子どもたちが誇りを持って「自分たちが植えた桜だ」と語れる日が来ることを願っています。

未来に希望をつなぐ活動として、これからも地域と共に歩み続けてまいります。